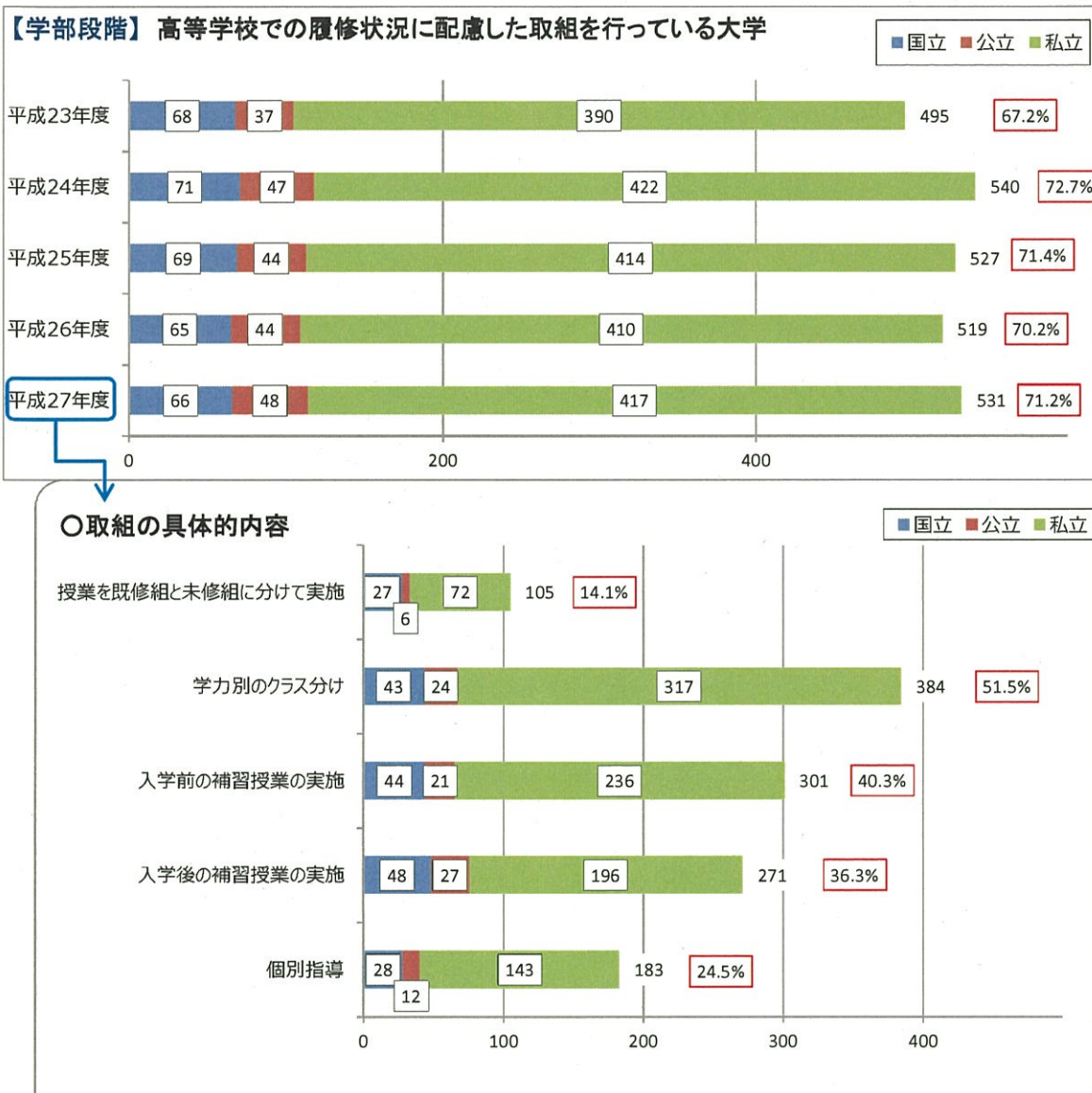


<学生の学修支援等の取組>

①高等学校での履修状況への配慮

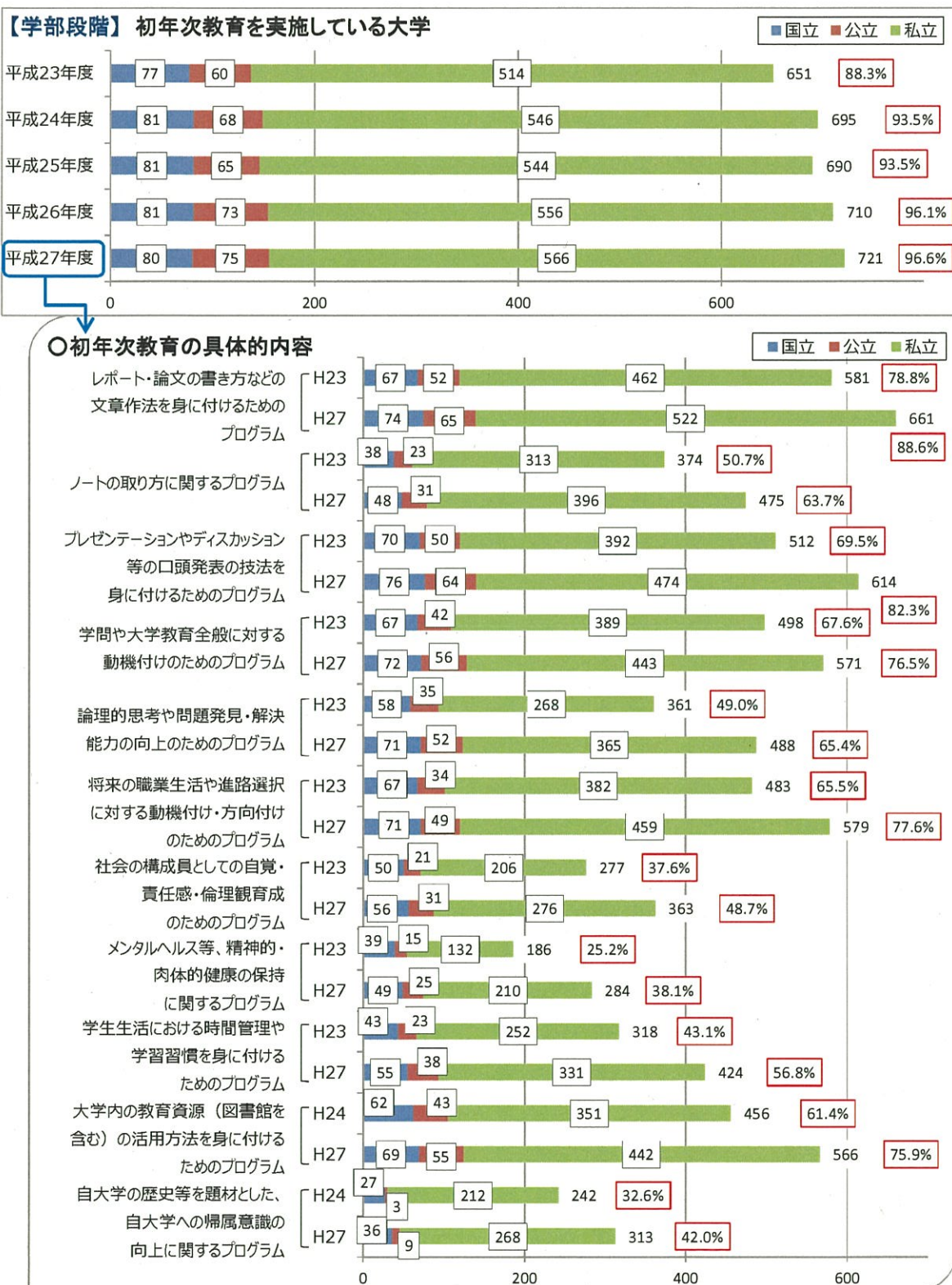
平成27年度においては、531大学(約71%)が、高等学校等での履修の状況に配慮した取組を実施しており、その内、学部全体で実施したのは299大学(約40%)となっている。



(※)大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

②初年次教育の実施状況

初年次教育を実施する大学は、平成27年度においては、721大学(約97%)で、その内、学部全体で実施している大学は610大学(約82%)となっている。

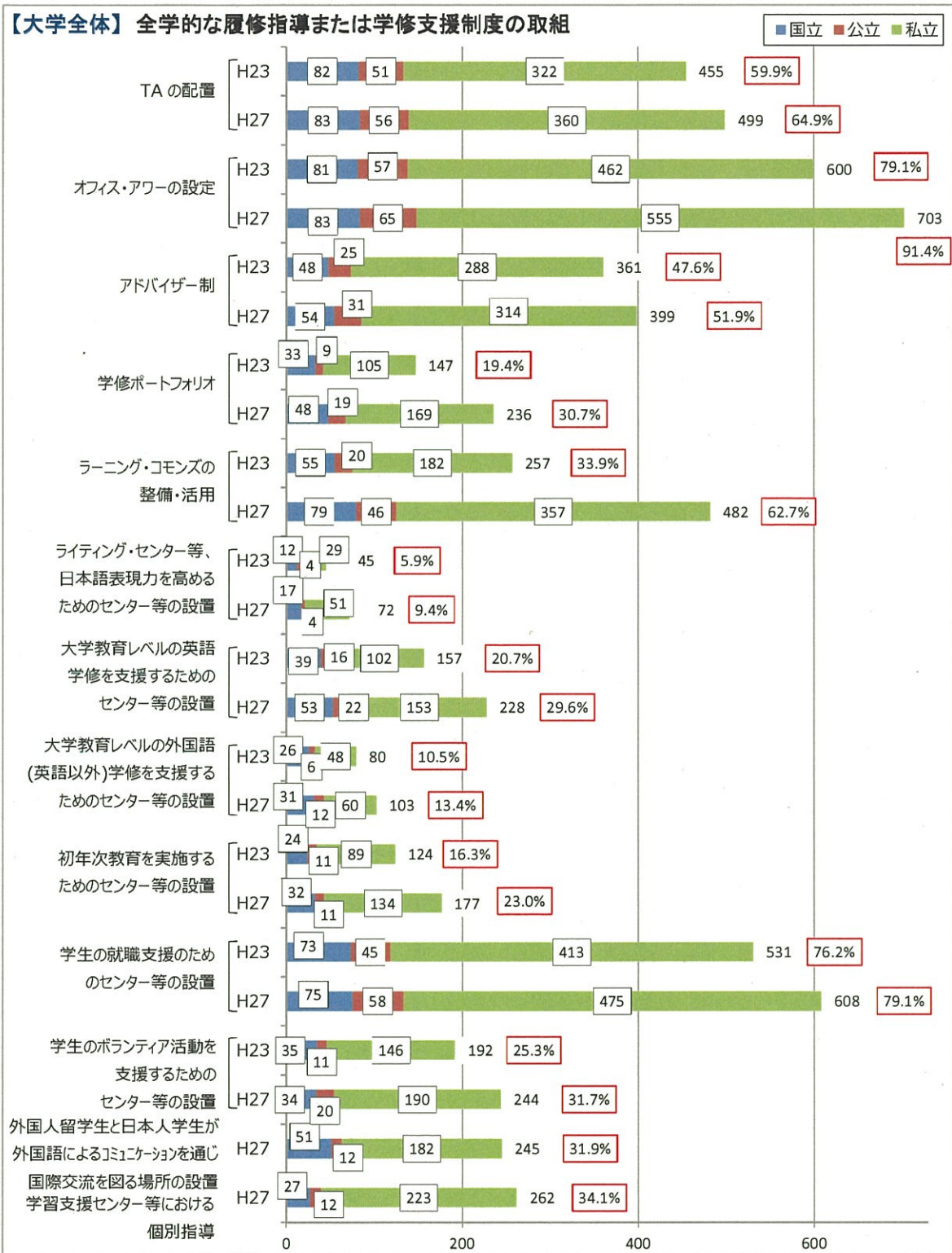


(※)大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

初年次教育:

高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新生を対象に作られた総合的教育プログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新生に最初に提供されることが強く意識されたもの。

③履修指導や学修支援制度等の取組状況



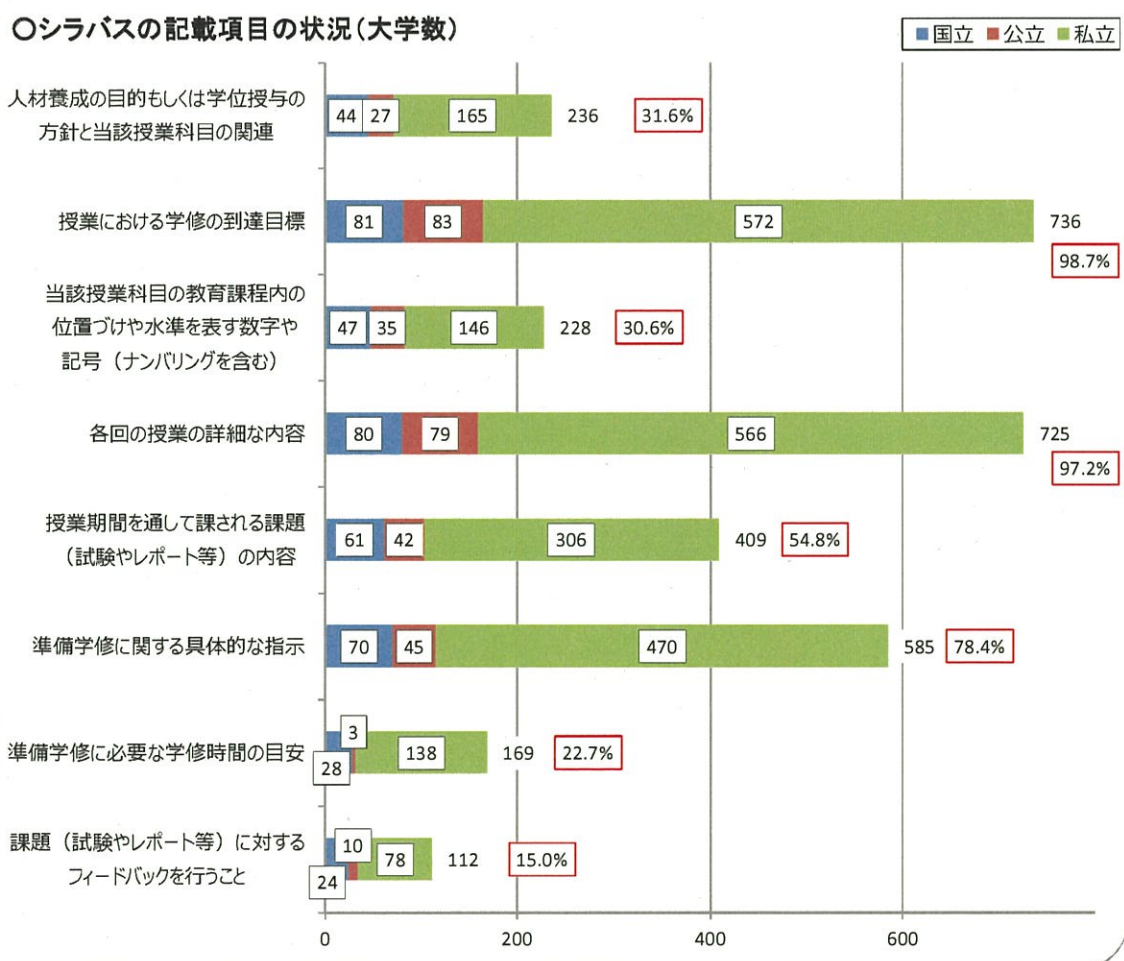
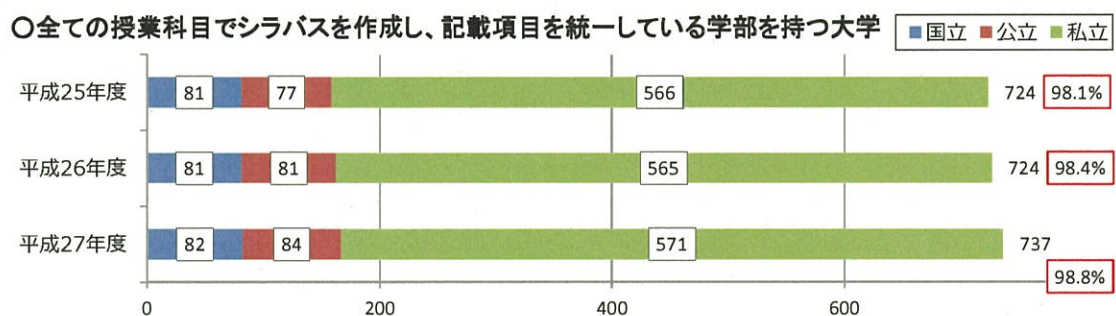
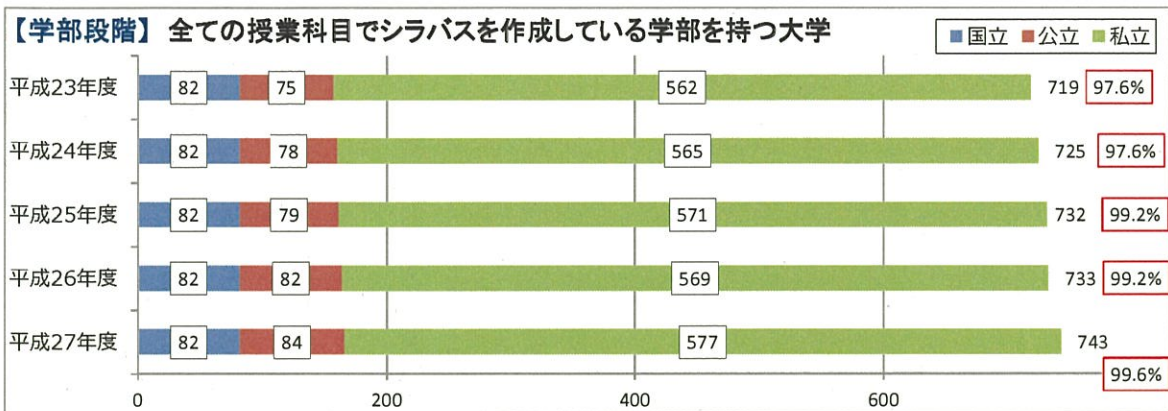
学修ポートフォリオ:

学生が、学修過程ならびに各種の学修成果(例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表等)を長期にわたって収集したもの。これらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて達成度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図ること等を目的としている。

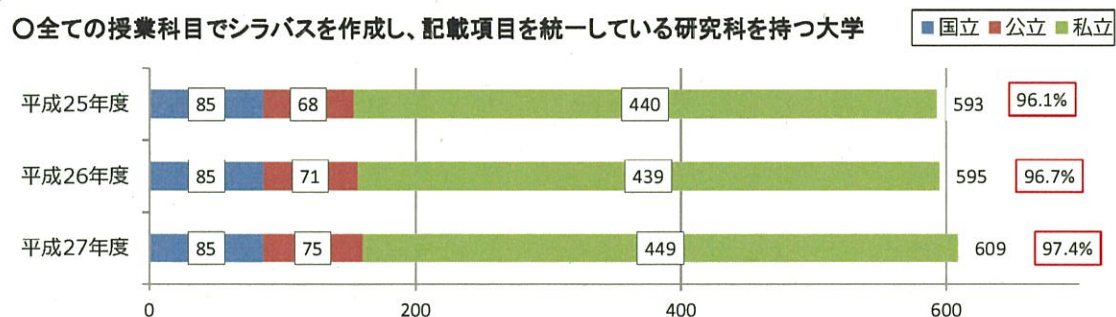
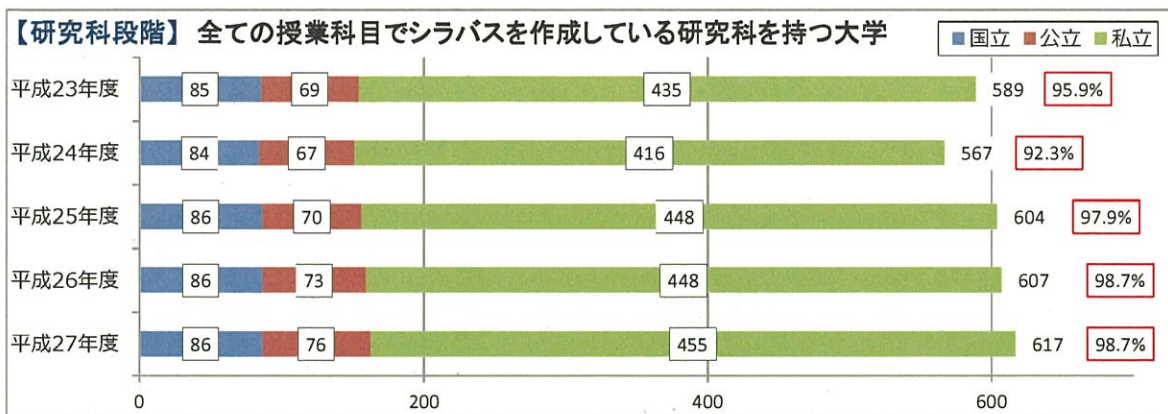
ラーニング・commons:

大学図書館等における、学生が学習のために集うことのできる共有スペース。グループ活動エリア、プレゼンテーションエリア、PC利用エリア等、個人の自習環境に加え、グループワークにも適した学習環境を指す。

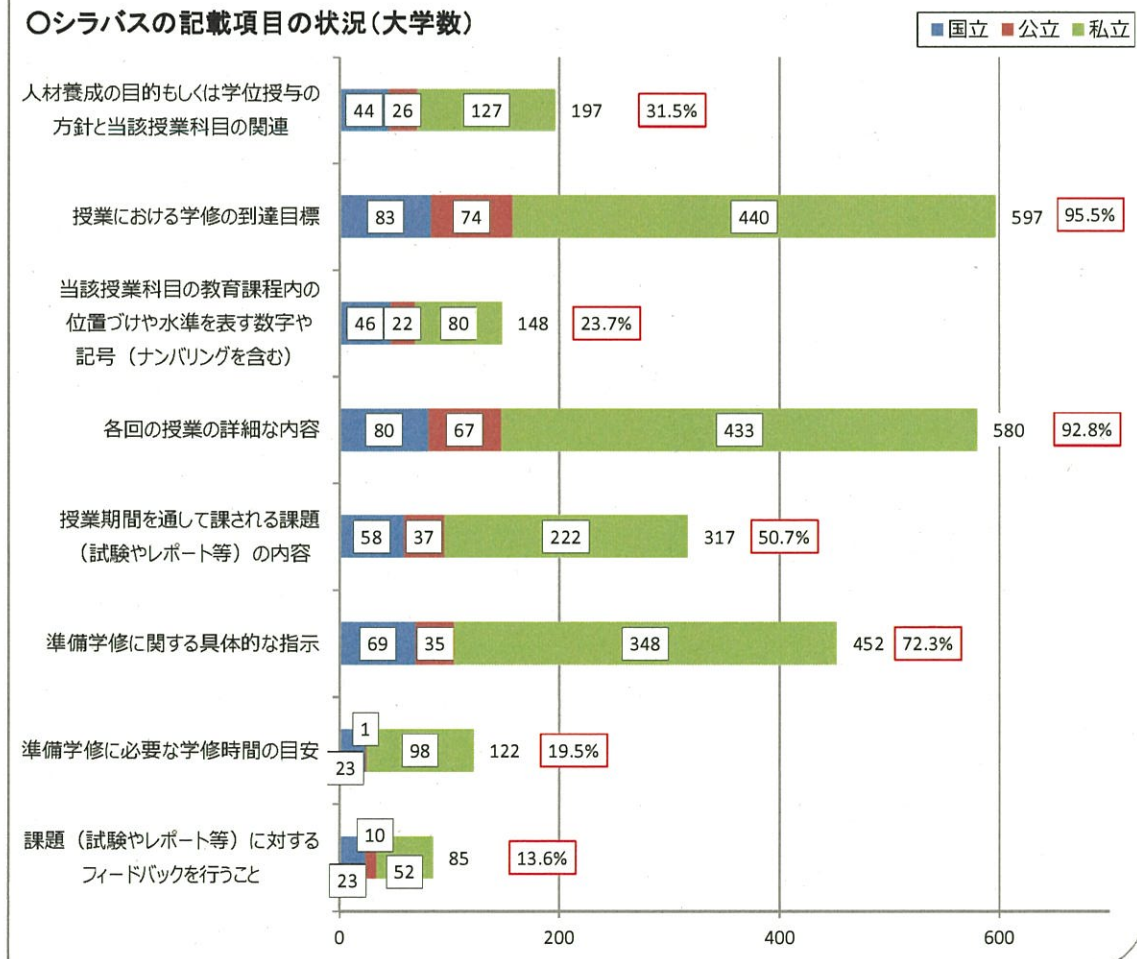
<シラバスの作成状況> ○シラバスの作成状況



(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。



○シラバスの記載項目の状況(大学数)

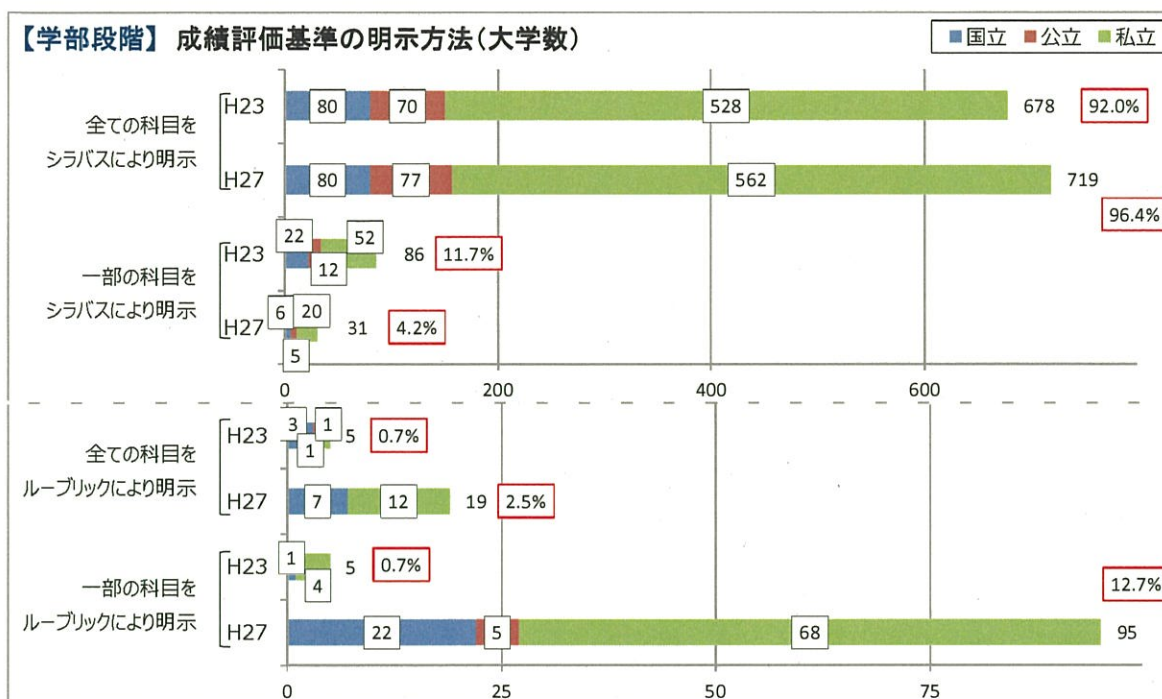


シラバス：

授業科目名、担当教員名、講義目的、講義概要、毎回の授業内容、成績評価方法、教科書や参考文献、履修する上での必要な要件等を詳細に示した授業計画。

<成績評価の状況>

①成績評価基準の明示



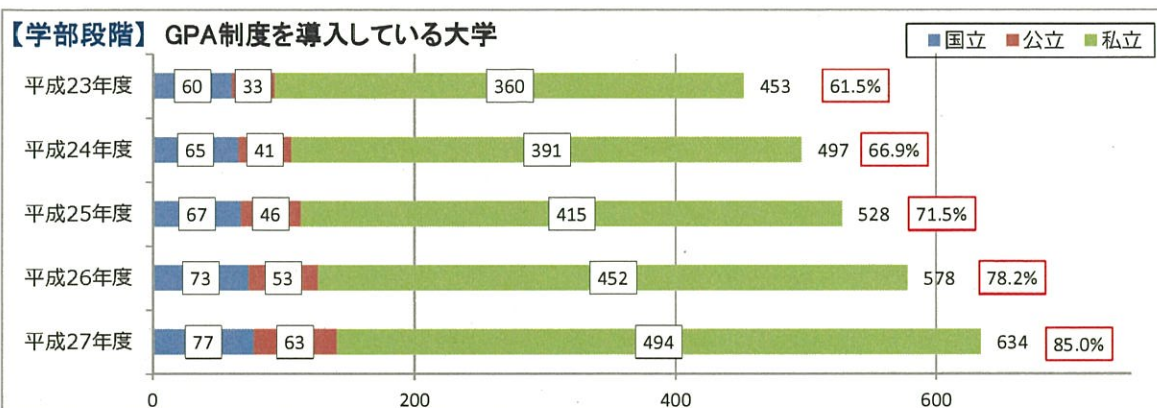
(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

ルーブリック:

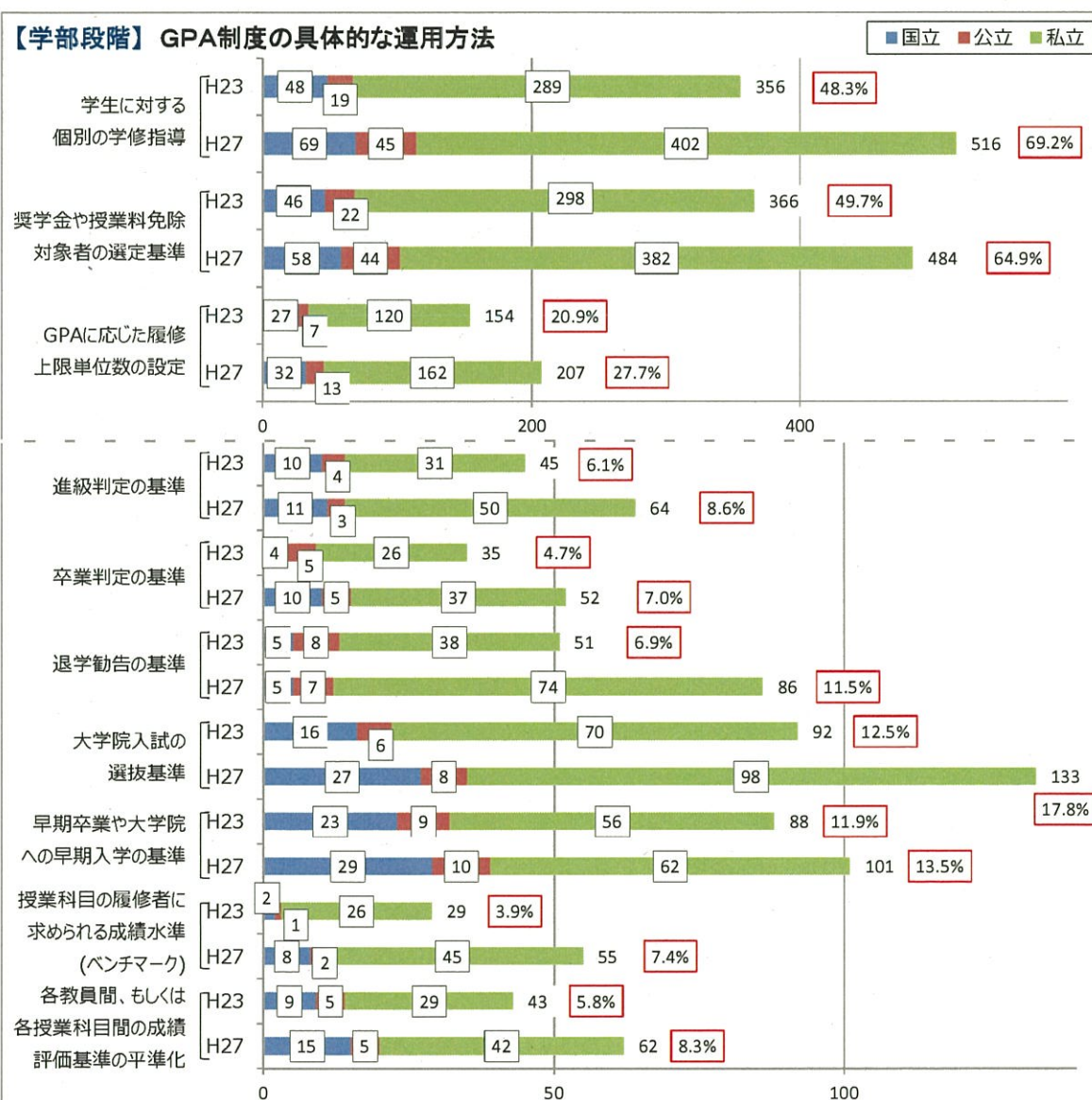
米国で開発された学修評価の基準の作成方法。評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがあるとされている。ルーブリックは、コースや授業科目、課題(レポート)等の単位で設定することができ、国内においても、個別の授業科目における成績評価等で活用されている。

②GPA制度の活用

平成27年度においては、「GPA制度」は、学部段階で634大学(約85%)が導入されており、その内、学部全体で導入しているのは610大学(約82%)となっている。



(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。



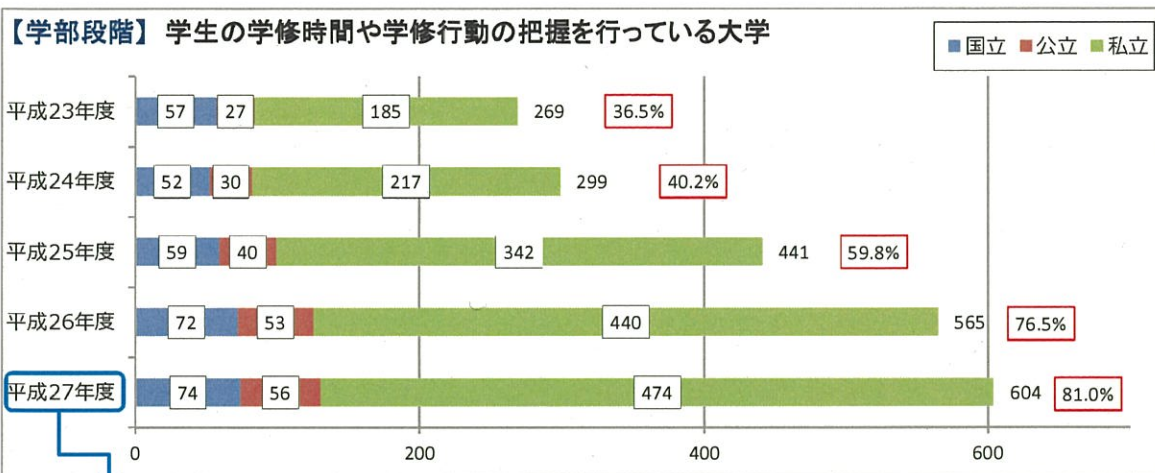
(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

GPA制度:

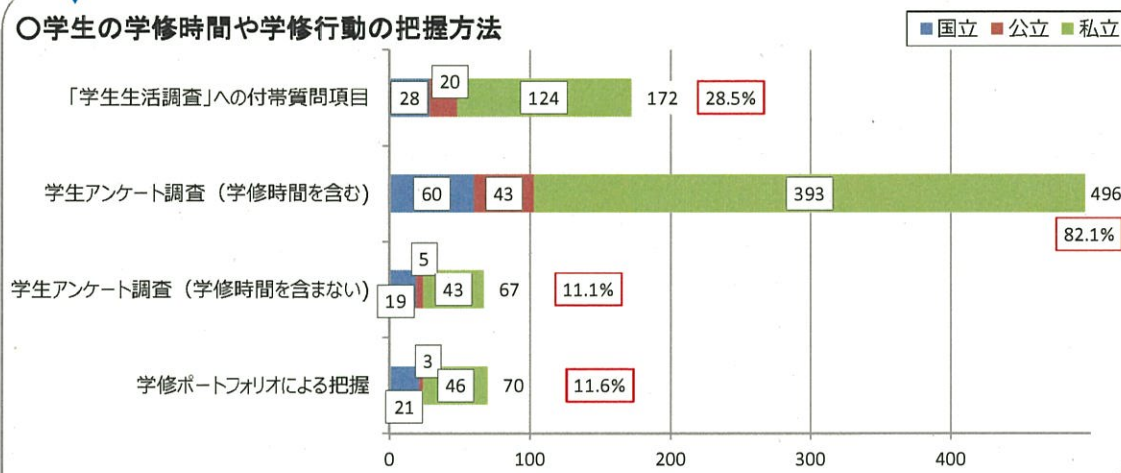
授業科目ごとの成績評価を、例えば5段階(A、B、C、D、E)で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0のように数値(グレード・ポイント:GP)を付与し、この単位あたりの平均(グレード・ポイント・アベレージ:GPA)を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

<学生の学修時間・学修行動の把握>

○学生の学修時間や学修行動の把握を行っている大学

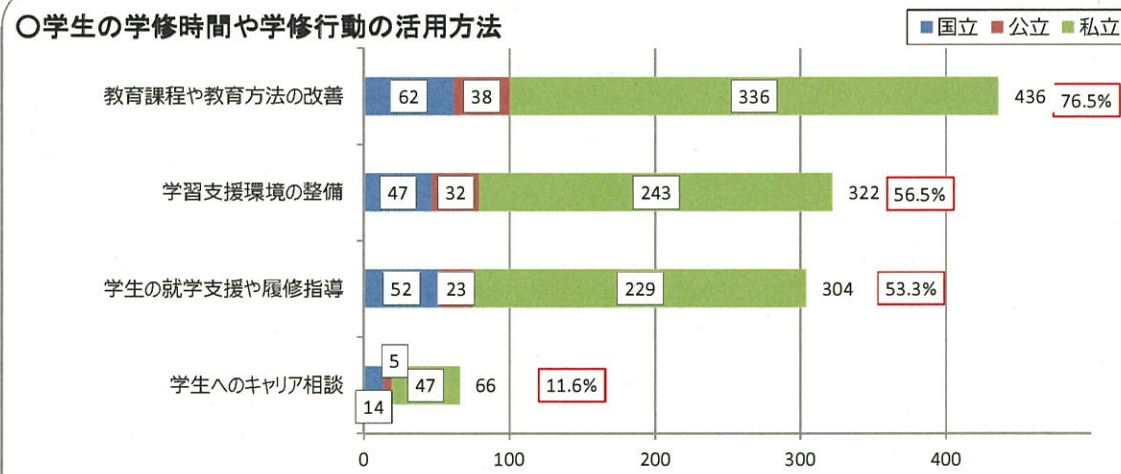


○学生の学修時間や学修行動の把握方法



(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

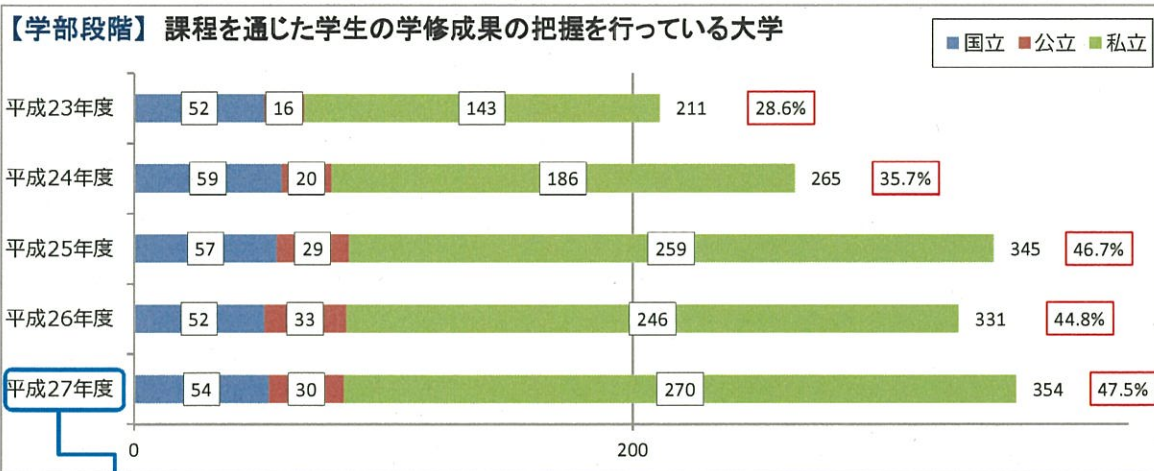
○学生の学修時間や学修行動の活用方法



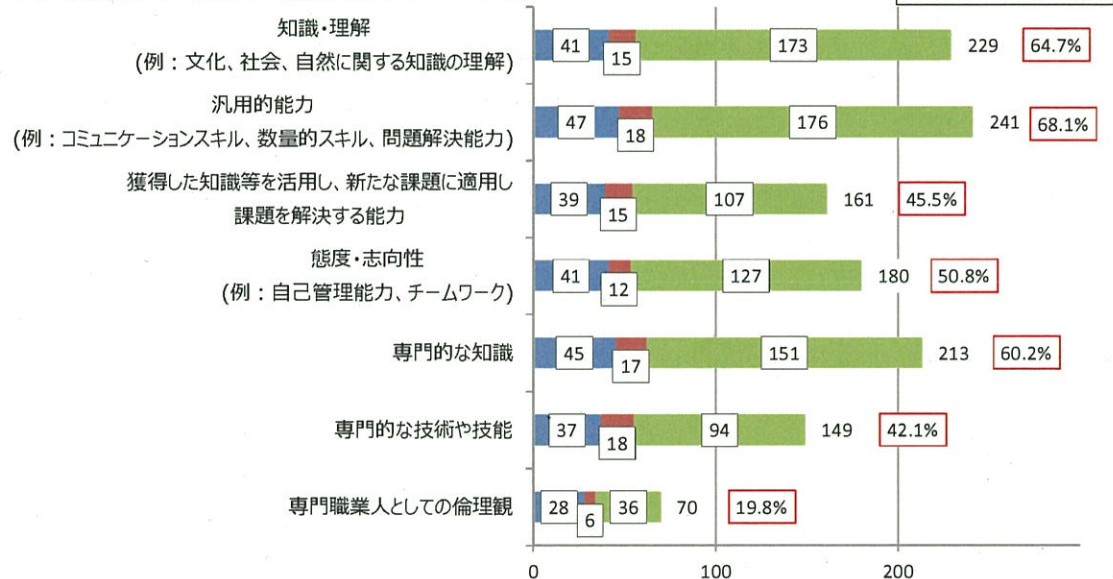
(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

<学生の学修成果の把握>

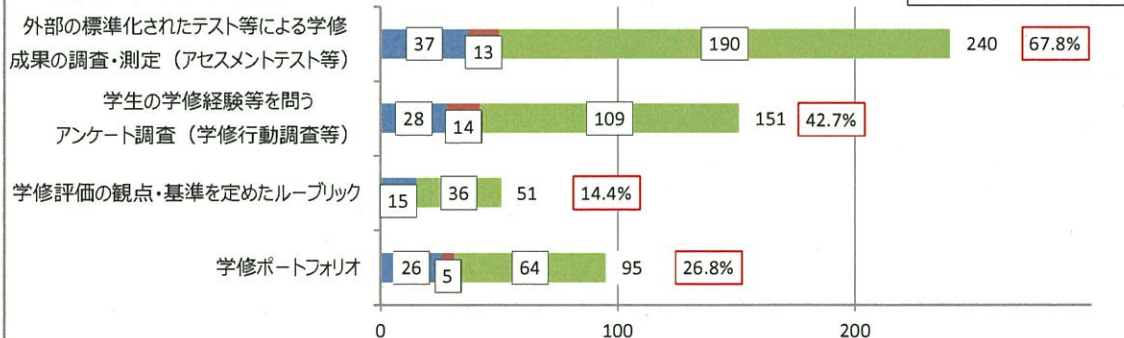
○課程を通じた学生の学修成果の把握状況



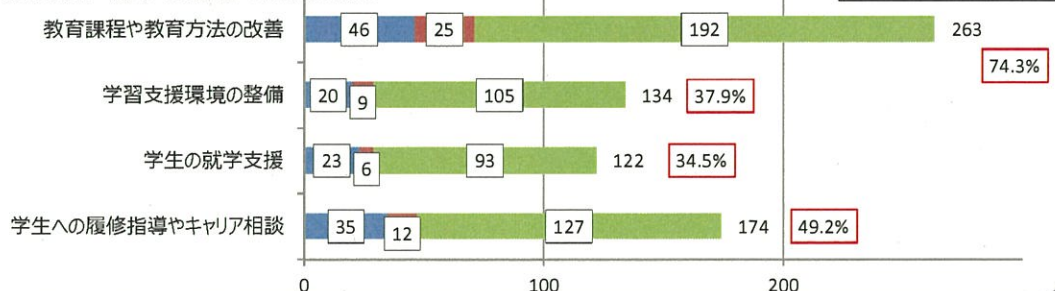
○学修成果として調査・測定を行っている事項



○学修成果の把握方法

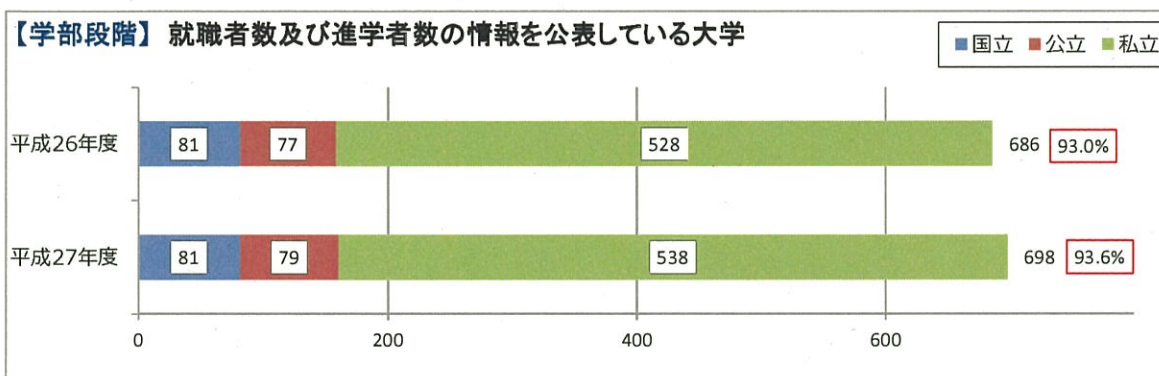
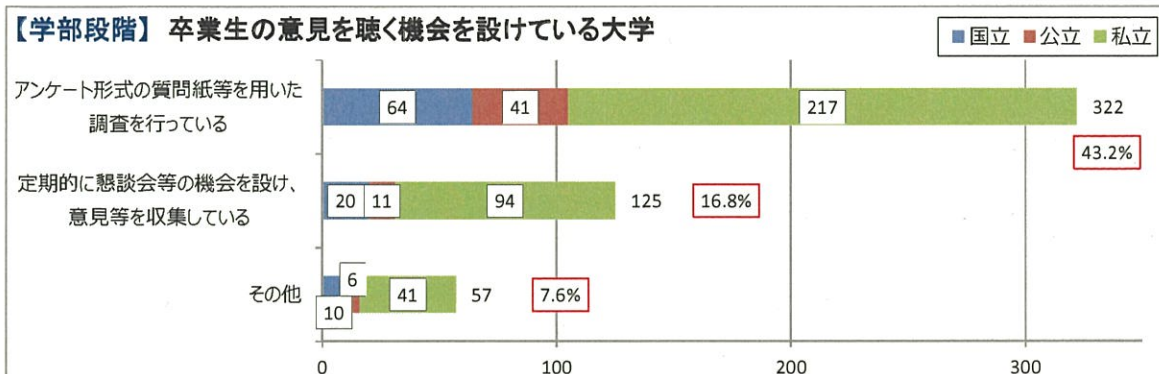


○学修成果に関する情報の活用方法



(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

＜卒業生の状況の把握＞ ○卒業生の意見を聴く機会

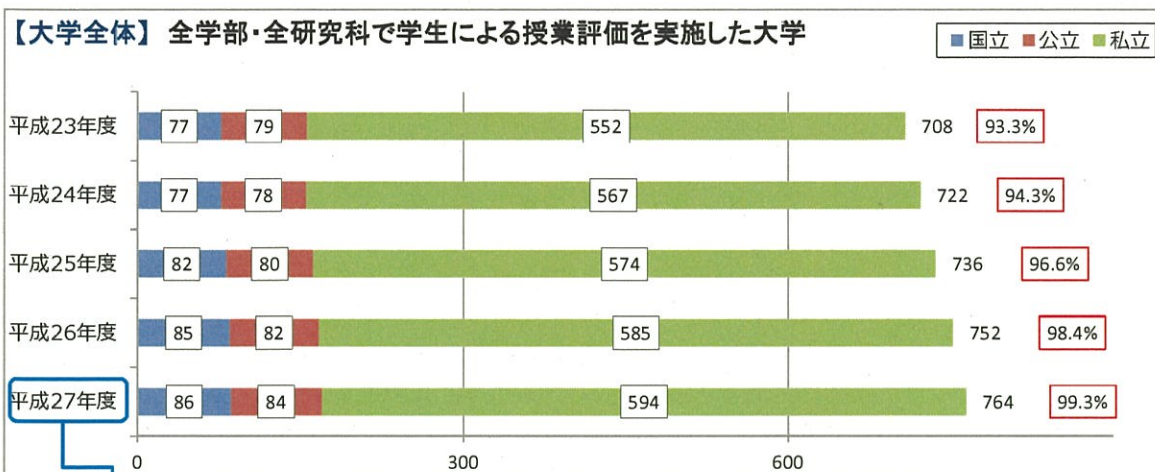


(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

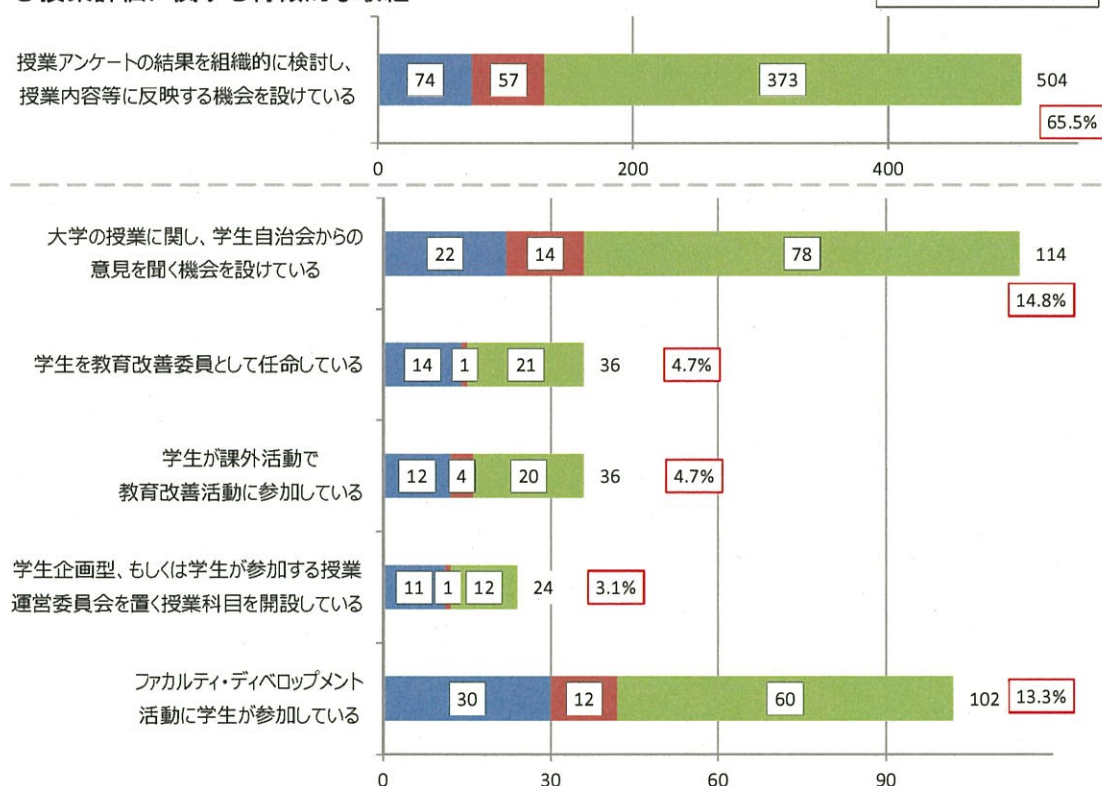
<学生による授業評価の実施状況>

○学生による授業評価の実施状況

平成27年度において、学生による授業評価を実施した大学は、国立86大学(約100%)、公立84大学(約99%)、私立594大学(約99%)、国公私立全体で764大学(約99%)となっており、その内全ての学部で実施した大学は732大学(約95%)である。



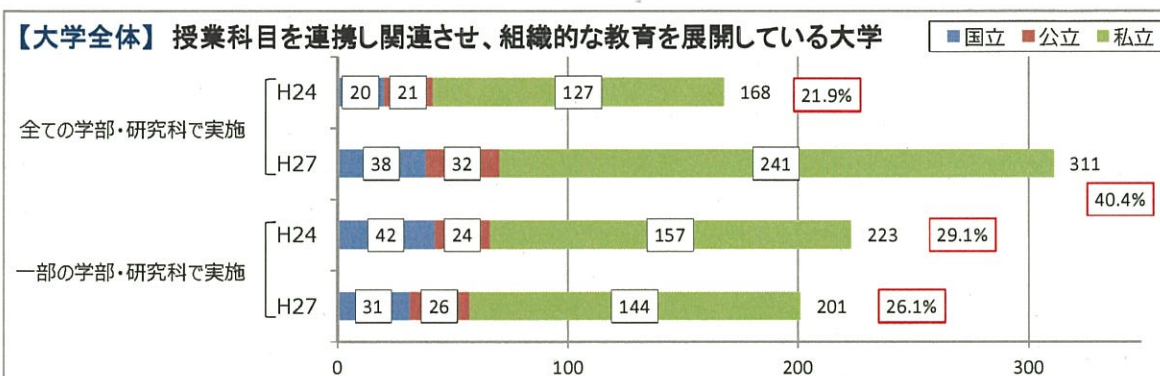
○授業評価に関する特徴的な取組



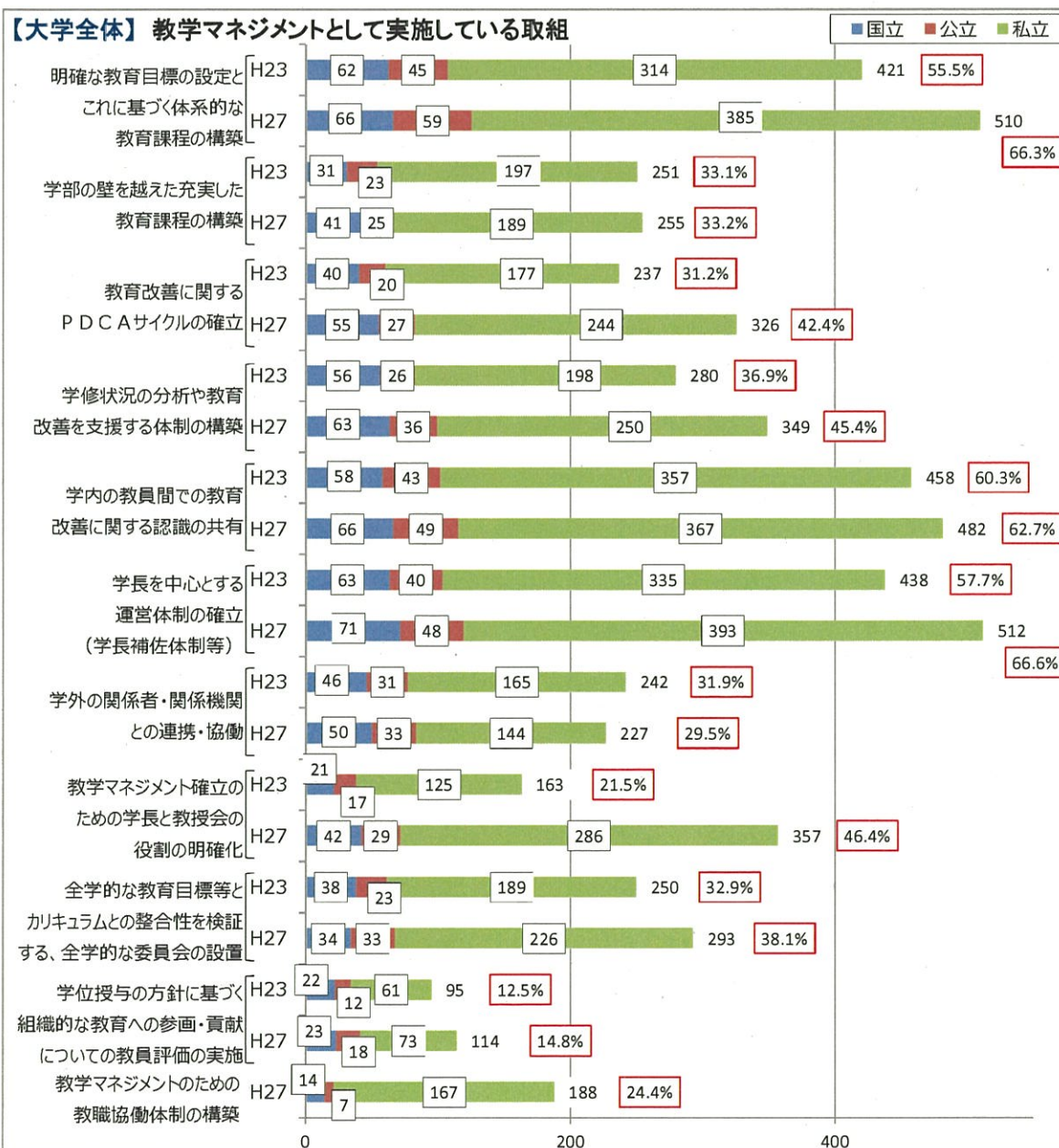
＜教学マネジメントに関する取組＞

①全学的な方針による組織的な教育の展開

全学的な方針の下、教育課程の中で、個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し関連させ合いながら、組織的な教育を全ての学部・研究科で展開している大学は、311校（約40%）となっている。



②教学マネジメントとして実施している取組

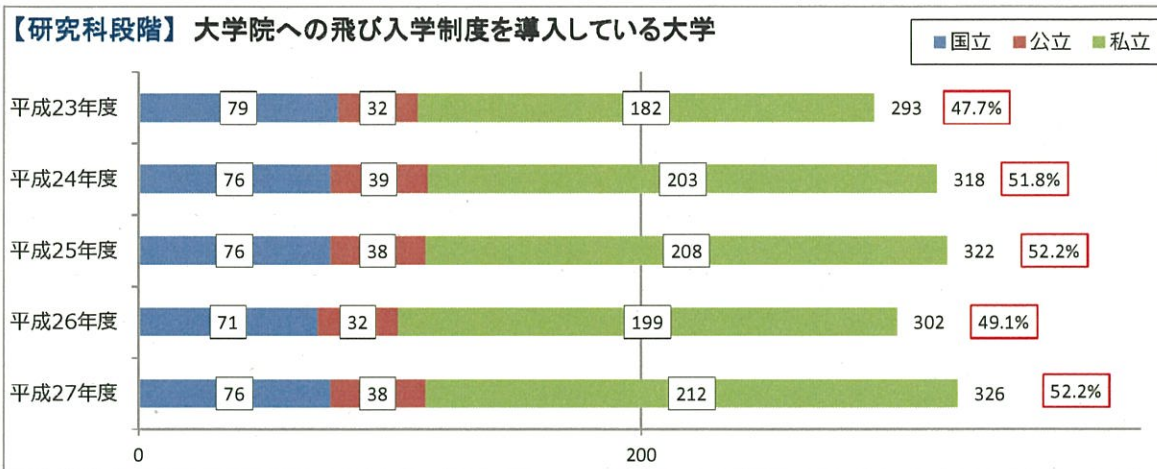


4. 開かれた大学づくり

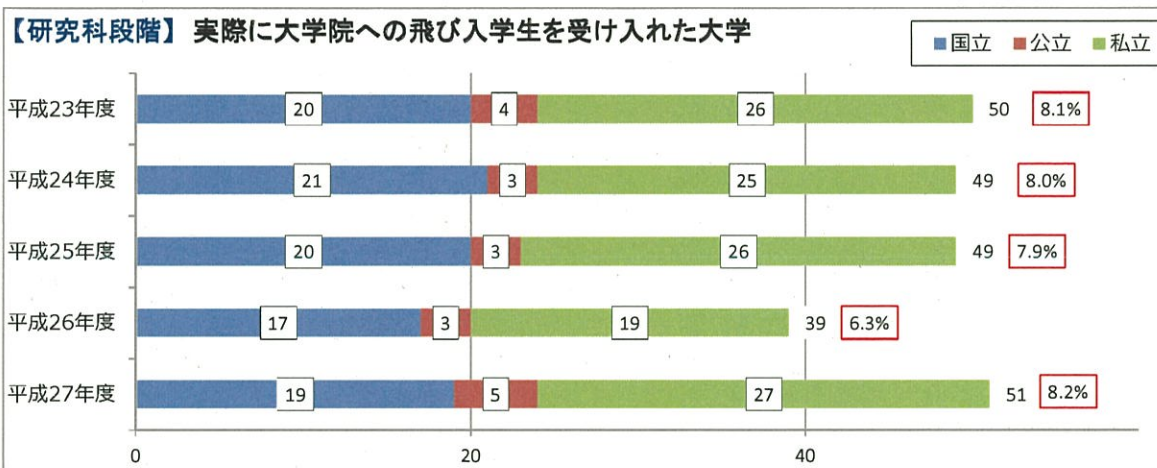
<入学資格の弾力化>

①大学院への飛び入学

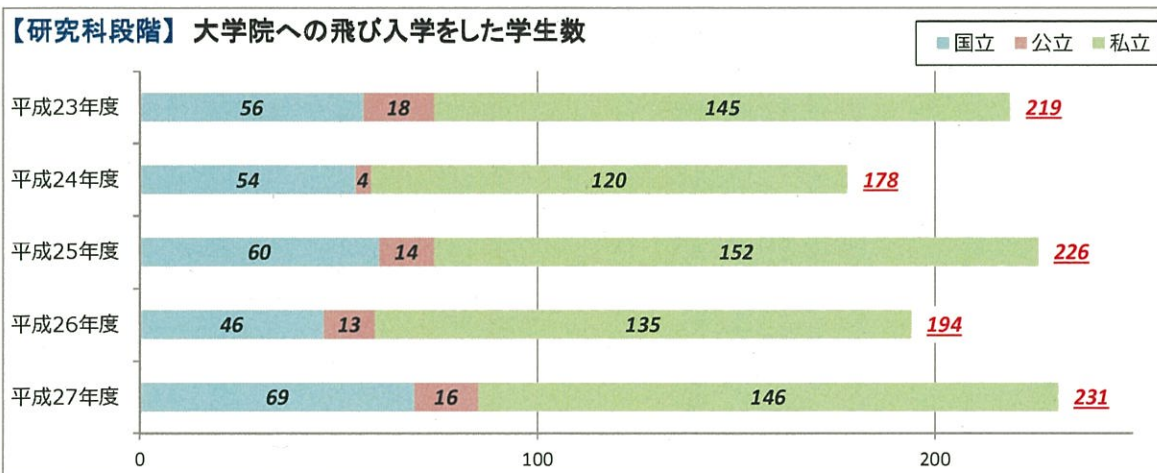
【研究科段階】 大学院への飛び入学制度を導入している大学



【研究科段階】 実際に大学院への飛び入学生を受け入れた大学

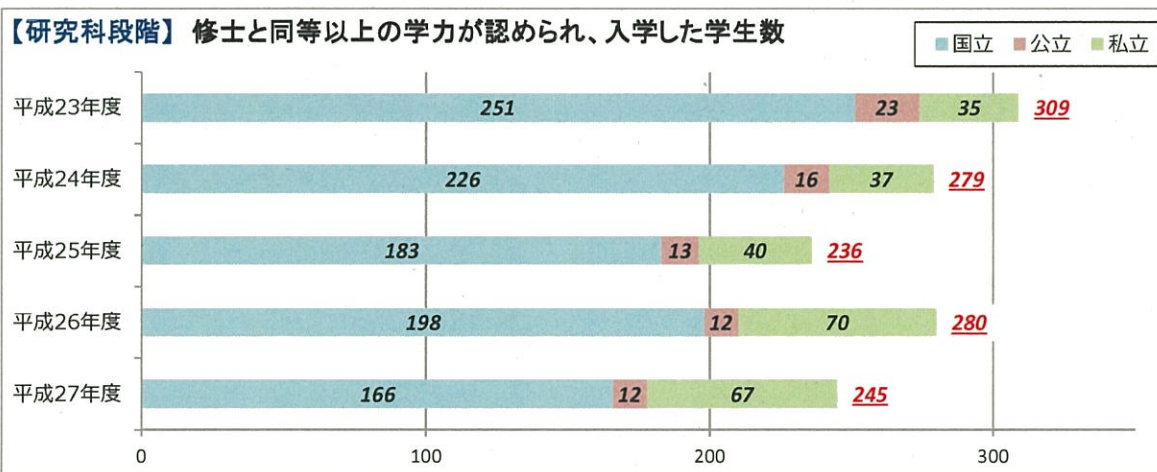
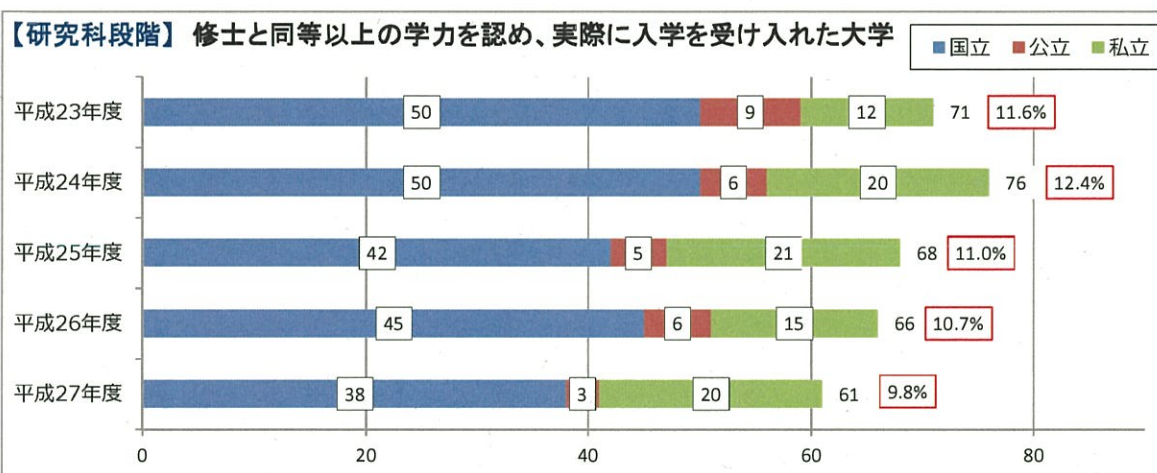
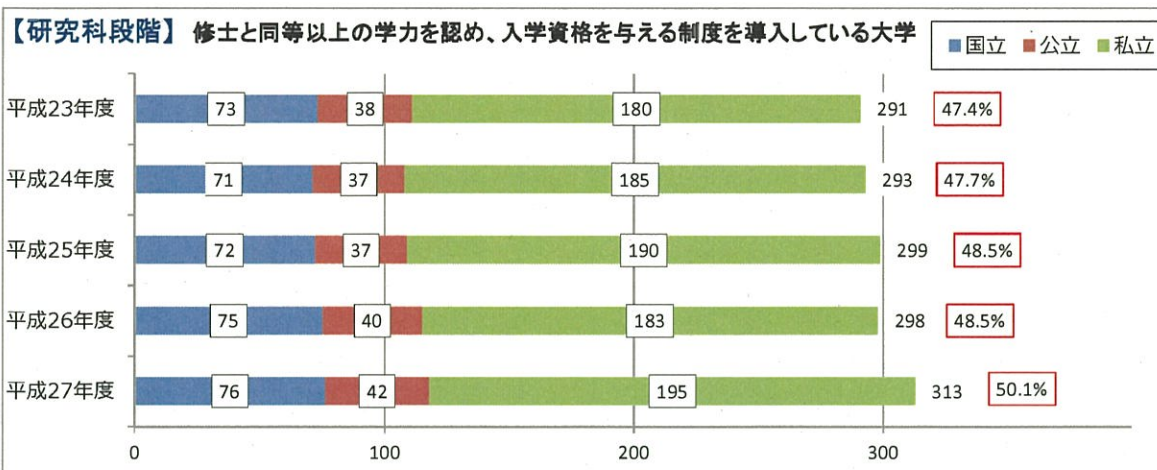


【研究科段階】 大学院への飛び入学をした学生数



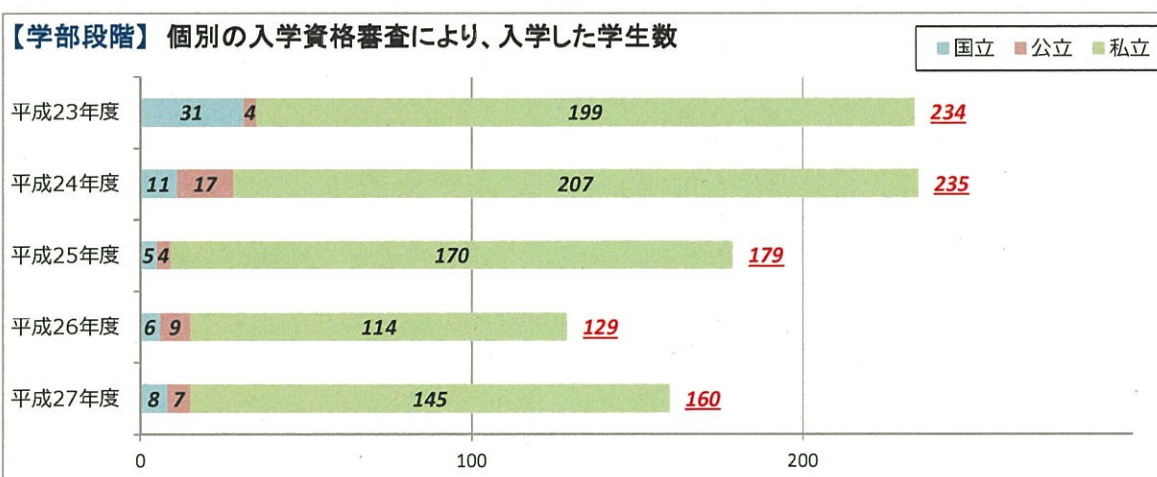
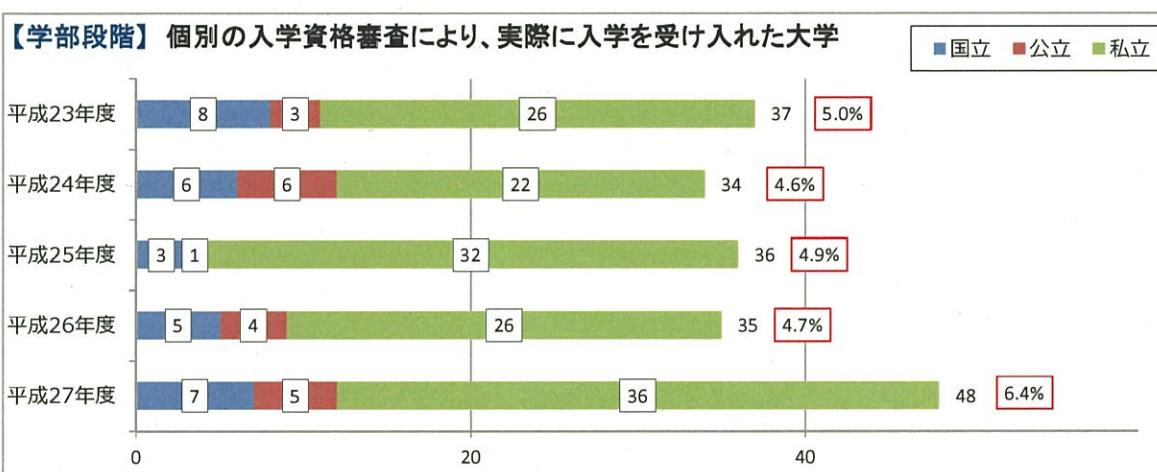
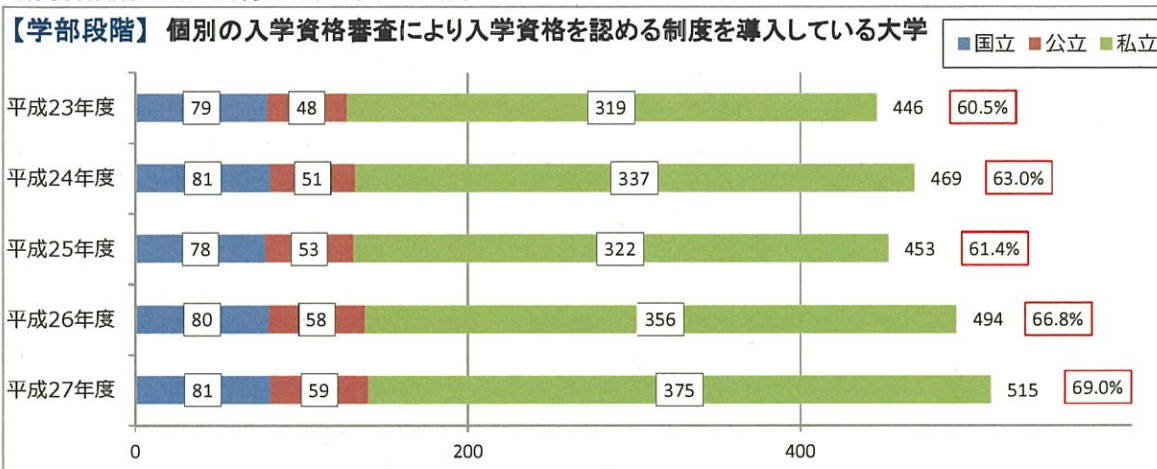
②修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者

大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者に博士課程後期への入学資格を与える制度を導入している大学は、5割程度となっている。



③個別の入学資格審査

学校教育法施行規則第150条第7項及び第155条第8項の規定に基づき、個別の入学資格審査により大学・大学院への入学資格を認める制度を導入している大学は、平成27年度は、学部段階では515校(約69%)、研究科段階では563(約90%)となっている。



(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。